

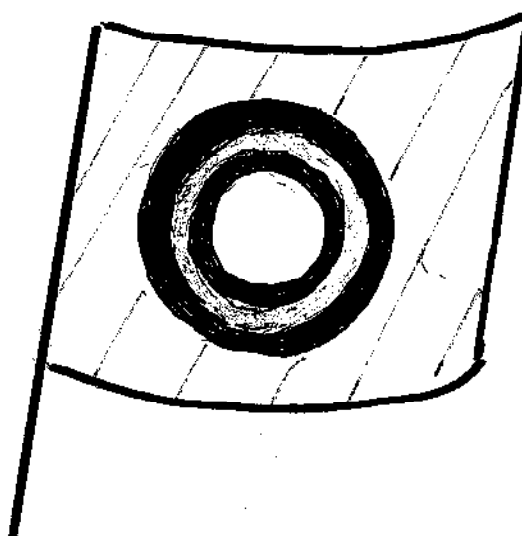
# グループの旗

Bコース: 2 グループ

## グループのネーミング

オールトファッション

## シンボルマーク



2024年 3月 26日

## チーフアドバイザー

市川 勝巳

## アドバイザー

花井 章弘

## 役割分担

No	役 割	氏 名	会 社 名
1	リーダー	渡部 勝晃	トヨタ紡織株式会社
2	サブリーダー		
3	発表者	磯谷 一徳	フタバ産業株式会社
4	質問者	松橋 美奈	東三工業株式会社
5	書記1	上村 俊	三栄工業(株) 株式会社
6	書記2	渡邊 勘太	三菱電機株式会社名古屋製作所
7	時間係・5S	鈴木 皓太	アイソワ株式会社
8			
9			

## グループの決め事

No	内 容	評 価
1	みんなが積極的に発言する	○
2	みんなで時間を守る	△
3	出た意見を否定しない	○
4	意思決定は全員一致で行う	○
5		

★活動終了時に全員で評価を実施します

★評価は、○、△、×等で記入

※全ての資料は大きく濃い字で書きましょう！

## チェックシート(現状把握用)

Bコース: **2** グループ

目 氏名	サイコロの出目の数						
	1	2	3	4	5	6	計
渡部	//// 4	/// / <del>6</del>	/// <del>3</del>	/// /// <del>8</del>	// <del>2</del>	// <del>2</del>	25 <del>79</del>
松橋	/// 5	 0	/// <del>3</del>	/// /// <del>10</del>	// <del>2</del>	///  5 <del>30</del>	25 <del>97</del>
鈴木	/// // 7	//// <del>4</del>	/// <del>3</del>	//  <del>2</del>	/// // 7 <del>35</del>	//  2 <del>12</del>	25
磯谷	/// // 7	// <del>2</del>	//// <del>4</del>	///  <del>3</del>	/// / 6 <del>30</del>	///  2 <del>12</del>	25
計	23 <del>23</del>	12 <del>24</del>	13 <del>29</del>	23 <del>92</del>	17	11	100
%	23	12	13	23	17	11	100

※グループで、2～3人が投げて、合計＝100回のデータをとる。

Bコース: グループ

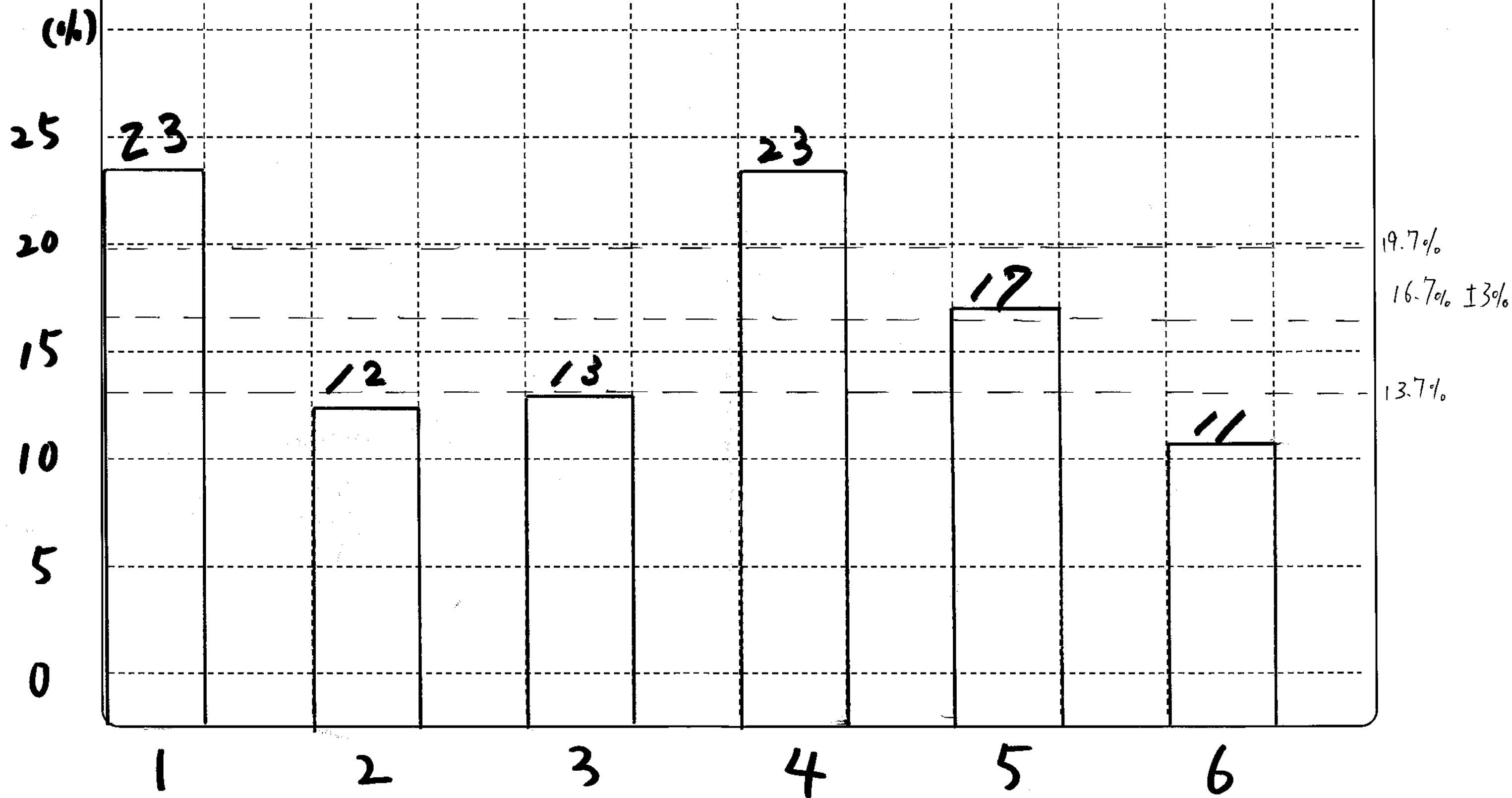
# 現状の把握と目標設定

「1」を13~19の間に収める

※現状 23

※目標値を決める。

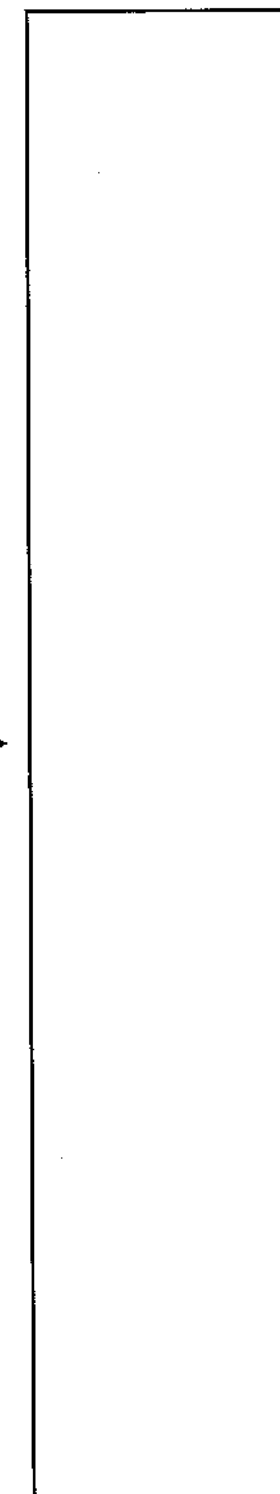
- \* 検査結果を棒グラフで表す。
- \* 規格と比較する。



## 要因の解析

Bコース:      グループ

\* 特性要因図を使って要因を絞り込む



# 対策の立案・検討と実施

\* 系統図法・マトリックス図法を使って対策立案、検討

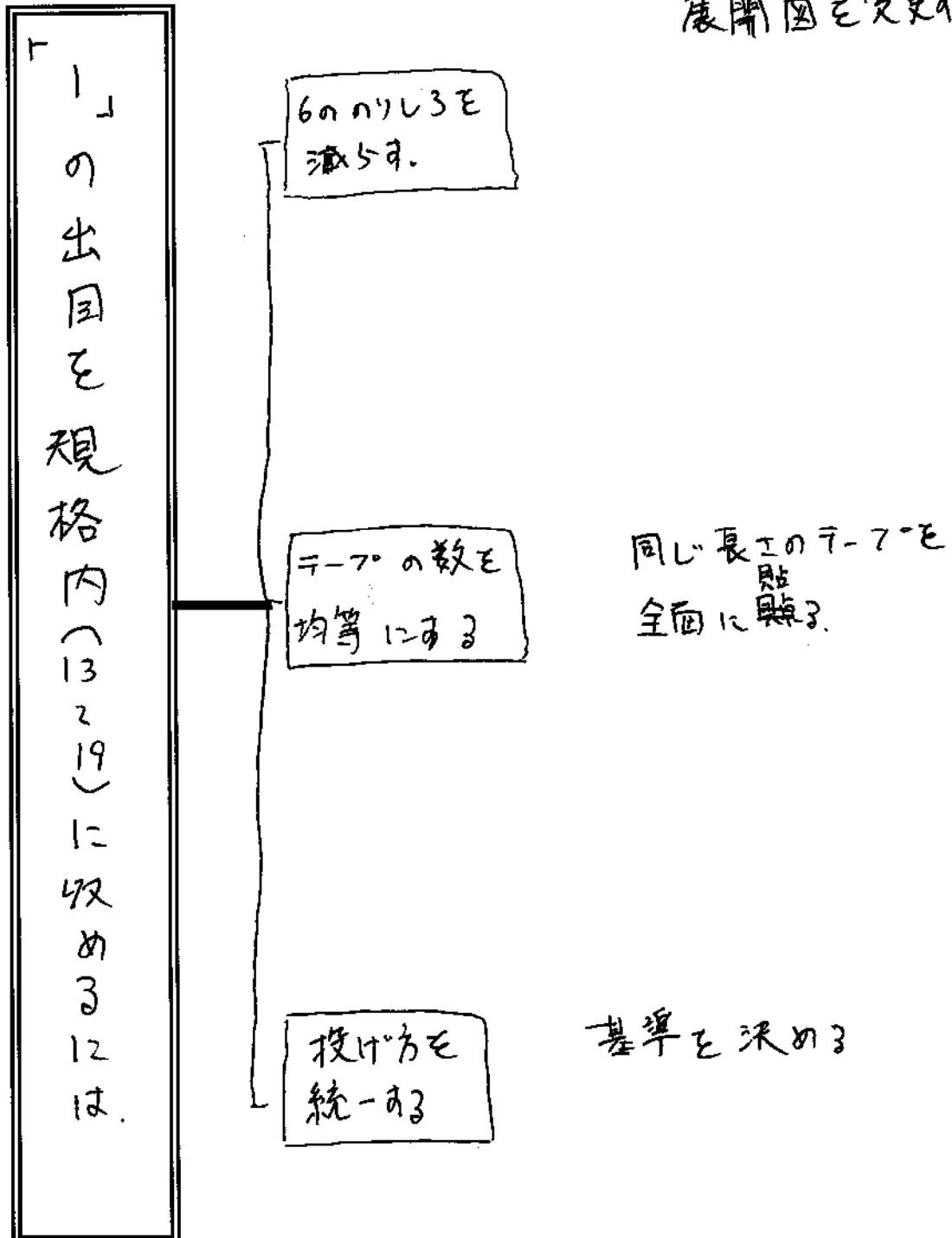
\* アイデアをたくさん出す

◎3点 ○2点 △1点

1次

2次

展開図を変更する



	現実性	効果	判定	
のりしろが均一になる展開図にする	◎	○	X	
バラバラの展開図を <sup>作</sup> 作る	◎	◎	○	
同じ長さのテープを <sup>貼</sup> 全面に貼る	◎	◎	○	
投げ込む位置に印を付ける	◎	◎	○	
ムナリでサイコロを投げる	◎	◎	○	
片で投げる	◎	◎	○	
同じ人が100回投げる	◎	◎	○	

## チェックシート(効果確認用)

Bコース:      グループ

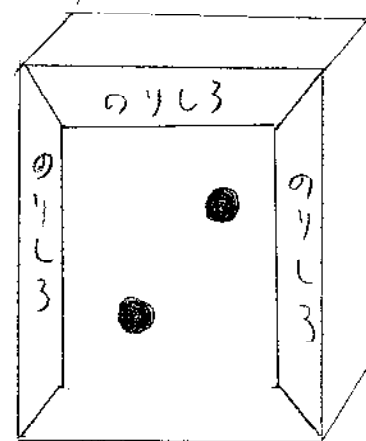
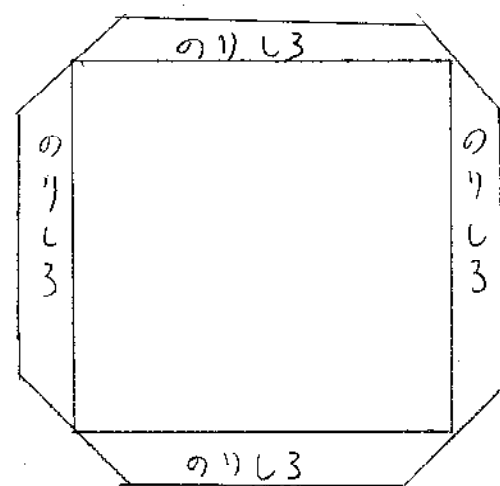
目 氏名	サイコロの出目の数						計
	1	2	3	4	5	6	
磯谷	HHH /// 8	HHH HHH /// 13	HHH /// HHH HHH HHH 24	HHH HHH HHH // 17	HHH HHH HHH HHH 19	HHH HHH HHH HHH 19	100
計							
%	8	13	24	17	19	19	

※グループで、2～3人が投げて、合計＝100回のデータをとる。

## 効果の確認

\* 工作図など活用

【対策後のサイコロ説明】

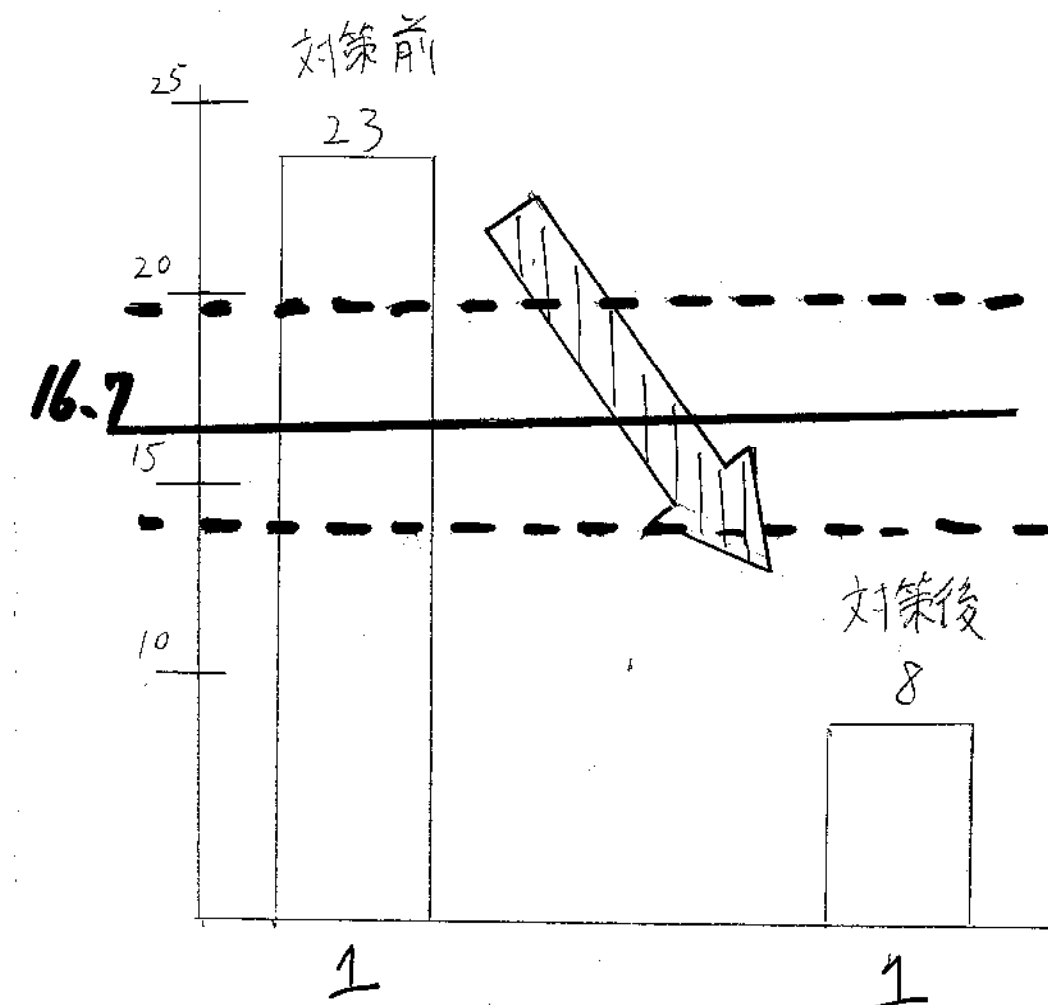


展開図ではなく、1面ずつ作成することで  
のりしろの数を同一にする。

\* 棒グラフで対策前と対策後の差が見えるように  
また、目標に対してどうだったのかを記入する

【対策後の目標との比較】

目標 1の出目を規格内に入れる



## Bコース: 2 グループ

## まとめ

## (1)標準化(有効な対策を記録しておく。何をどうする)

- ・展開図を残す。
- ・授け方の手順書を作る。  
(授ける人を統一化すること)

## (2)活動の評価(研修を通して学んだことなど)

- ・要因・解析の重要さを学ぶことが出来た。鈴木
- ・ベテランだけではなく、新しい取り組みをする事で  
新人など色々な人の意見が出て良かった。渡部
- ・色々な現場の力で一緒に結束していたからこそで  
自分には無い視点が考え方を学ぶことが出来、非常に勉強になりました。上村
- ・サークル活動もより進捗していくことが学んだ。  
様々な意見が出て、勉強になった。同じサークル活動でした。磯谷
- ・知らない人と初めてやる作業でQCをやるのは新鮮で  
勉強になることも多く、いい経験になりました。松橋
- ・特性要因図を活用する際に、自身1人の考えは出てこないものもグループで  
活動することによってより深い追求が出来ることを学びました。渡邊

## (3)反省と今後の進め方

(今回の研修を今後どう活かしていくかなど)

- ・要因・解析の話し合いをもっと発展させ、より濃い内容を話し合える  
ように活かしていきたい。鈴木
- ・自分の職場のサークル活動に活かし、円滑に始め活気のあるサークル  
活動を行ってみたい。磯谷
- ・サークル員、みんなが意見をいいあえるサークル活動をするため。  
今日の事をいかせたらと思う。松橋
- ・今後は、QCサークルをリーダーとして円滑に進行出来るように  
がんばっていきます。渡邊
- ・自社に戻り、QCサークルをする際には、メンバーの意見に  
しっかりと耳を傾け、新しい発見につなげていけるようにしたい。
- ・今後、QCを進めていく中でメンバーの意見を引き出すことの出来る進捗をしたい。渡部